

# 社会福祉法人

令和6年4月号



# 葦の家福祉社会だより

## 今年度もよろしくお願ひいたします！

～ 昨年度を振り返って ～

昨年度も新型コロナの影響を受け、制限の多い1年でしたが、感染症5類移行に伴い、さまざまな地域行事が再開され、仲間たちもいろいろな行事に参加することができました。5月には4年振りの「博多どんたく」参加に始まり、施設近隣でも「油山クリーン作戦」「樋井川4丁目夏祭り」「堤地区大運動会」といった地域イベントが次々と再開され、仲間たちも地域の方々と一緒にいろいろなイベントを楽しむことができました。



博多どんたく港まつり



油山クリーン作戦



樋井川4丁目夏祭り

地域のバザー出店なども次第に増えてきました。えーる油山では施設前のスペースで「あおぞらマルシェ」を開催し、アートグッズだけでなく、採れたて野菜なども地域の方々に販売しました。10月には「わはは祭り」再開に向けたプレイベントとして「えりあ〜ト展」をお隣の長尾中学校で開催することができました。地域の方から「早く再開してほしい」「また、カレー販売を手伝いたい」という声もいただき、来年の祭り再開に向けて弾みがつきました。



バザー出店



あおぞらマルシェ



えりあ〜ト展





施設全体での旅行やバスハイクはまだ再開できませんでしたが、小グループでの外出を組み、いろんなところに出かけました。葦の家では「もーもーらんど」「ベイサイドプレイス」「九州国立博物館」「一蘭の森」「ららぽーと」などへ出かけ、それぞれに楽しい思い出を作ってきました！



もちろん作業も頑張っています。パッキンの型抜きやスプーンの袋入れなどの下請け作業、アルミ缶リサイクル作業、地域の公園清掃・トイレ清掃、農作業、アートグッズ、フェルト手芸品の製作・販売など、仲間たちの工賃確保に向けて新商品の開発も積極的に行ってきました。



### ～ 仲間たちを守る ～

5 類に移行したとはいえ、未だ新型コロナは福祉施設にとっては脅威です。ノロウイルスなどのその他の感染症にも気を付けねばなりません。昨今は大規模自然災害の発生も多く、今年1月の能登半島地震でも大きな被害が出ています。法人ではさまざまなリスクに対応するため、緊急時のマニュアルを整備し、定期的に見直しを行っています。また、福祉施設として虐待や不必要な身体拘束が行われないよう、スタッフの意識教育も不可欠です。

各事業所では、これらのリスクについての対策や定期的な訓練を行っています。自然災害だけでなく、仲間たちの高齢化に伴う事故など、あらゆるリスクを想定して準備しておく必要があります。仲間たちの安心・安全な生活を守っていくため、私たちは知恵を出し合いながら頑張っていきたいと思いますので、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。





## 葦の家で「成人を祝う会」が開かれました

1/6 に葦の家で1名の仲間の新成人をお祝いしました。新型コロナウイルス、インフルエンザなどの感染症対策により、少人数での開催でしたが、卒業校の先生や地域の方、後援会会長などご列席いただきました。皆さんからお祝いや励ましの言葉をかけていただき、Patisserie KOIDE さんから記念にと仲間たちにブラウニーをいただきました。参加されたご家族も喜ばれていて、とても温かい式となりました (#^^#)



## 法人実践研究発表会

2/10・22の2日に分けて開催しました。昨年同様、各事業所で実践した研究結果をポスター形式で発表し、なかなか聞くことがない他事業所での活動や取り組みを知ることができました。職員のみではなく利用者のご家族にも参加いただきました。



通所施設からは「集団支援の効果」や「働くこと」、グループホームからは「親なき後の支援」といった、各事業所が持つそれぞれの課題に対して行った実践の結果が報告されました。ここで発表された報告以外の研究発表についても誌面にまとめて関係者にお配りしています。

## SNSで日々の情報を発信しています！

Instagram、X（旧ツイッター）、フェイスブックで日々の支援の様子や、法人からの情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください！



Instagram



X (旧ツイッター)



フェイスブック



## 令和6年度 葦の家福祉事業方針

葦の家福祉会は「障がいがあっても地域の中でふつうの生活を」の理念のもとに各事業所運営を推進しています。しかし、仲間たちの高齢化やご家族の高齢化（親なき後の支援）に伴い、ニーズも変化してきており、地域のニーズや障がい福祉のニーズも踏まえた上での事業運営が求められてきています。今年度は、そういった変化も含めた上で、あらためて法人の原点にもどり「障がいがあっても地域の中でふつうの生活を」を目指した運営を行ってまいります。仲間たちへの支援と、それを支える職員たちのモチベーションを維持していくため、今年度は経営面、事業運営面において下記の目標をあげ、事業を推進していきます。

### 【経営面】

- ①令和7年度に向けた新しい本部体制づくり
  - ・法人本部事務局の業務整理や人事異動も想定した管理職・事務職の人材育成
- ②りーどをはじめとした生活支援事業の収支安定化
  - ・採算性の低い事業の運営体制の見直し、事業者間連携による効率性の改善
- ③人事考課・給与体制の見直し
  - ・キャリアに応じた人事評価システムと給与体系の構築
  - ・安定した人材確保と人材育成・法人全体での効果的な採用活動

### 【事業運営面】

- ①計画的なショートステイ利用者の受け入れによる事業の安定化
  - ・効率的な利用による採算性の向上と安定したスタッフの確保
- ②各事業所がグループホームと連携を図れる勤務体制づくり
  - ・緊急対応をはじめとする法人内での応援スタッフ制度
  - ・法人外のグループホーム事業所と連携した利用者支援の確立
- ③えーる油山移転・建設に向けた取り組み、および跡地活用の検討
  - ・令和7年度の開所に向けた準備（重度者の支援に対応し得る環境設定）
  - ・移転後の土地の活用方法の検討（施設整備補助の有無による）
- ④親なき後の支援についての研究
  - ・成年後見制度・民事信託など、親なき後の本人の生活を支える仕組み作りについての研究
- ⑤相談支援事業の整理
  - ・基幹型相談支援と計画相談（あしっぷ）の一体的運営による支援業務の効率化



ショートステイや計画相談、重度型のグループホームなどは、地域で生活していくために必要であるにも関わらず、運営的には非常に厳しい事業もあります。法人の理念を叶えていくためには、法人内の事業所が連携して業務の効率化を図り、仲間たちに必要なサービスを維持していく必要があります。そのため今後は、幹部職員の育成にも力を入れ、より一層、財務・労務・人事・制度理解といった経営力強化に努めていくとともに、地域への発信・広報力の強化を図り、仲間たちにとってより良い支援が提供できるよう、法人一丸となって事業を推進していきます。



## 葦の家（生活介護）

### 鬼は外！福は内！

2/3、節分の日には豆まきをしました。鬼に扮した職員が各部屋を回り、仲間たちは「鬼は外！福は内！」と思いつきに豆を投げました。

鬼が怖くて、後ずさりしながらも「鬼は外！」と必死に豆を投げる仲間、優しさから誰もいないところに豆をポイッと落とす仲間、鬼がいなくなったか、最後まで確認する仲間…それぞれの楽しみ方で参加している姿が印象的でした。

毎年の行事ではありますが、仲間たちのいろいろな姿が見られて、とても楽しい時間になりました。豆まきのおかげで今年も葦の家に福が訪れ、1年健康に過ごせるといいですね！

（支援員：内野）



## えーる油山（生活介護）

### 季節の行事を楽しむ

季節を感じられる行事は、仲間たちが1年の見通しを持つ上でも大切で、楽しめる活動場面です。今回は、えーる油山独自の行事を紹介します！

春は「花見」。西公園、桧原運動公園、室見川河畔公園など様々な場所に出掛けていきます。夏は「七夕」。毎年大きな竹を地域の方からいただき、短冊を書いたり飾りつけをしたりして楽しんでいます。今年度の「えーる1（ワン）グランプリ」は夏に行いました。毎年テーマに沿って創作を行い、仲間同士で鑑賞・投票をするものです。優勝と準優勝の賞品は、自分の描いた絵のTシャツでした！秋は「バスハイク」。一番遠いところは門司の九州鉄道記念館！鉄道大好き仲間は大喜びです。冬は「クリスマス会」「書初め」「初詣」「バレンタイン」「節分」と目白押し。そしてまた新しい一年が始まります。今年度もたくさんの方の仲間の笑顔がみられますように。

（支援員：山内）



花見



七夕



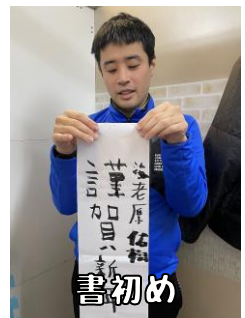
えーる1グランプリ



バスハイク



クリスマス会



書初め



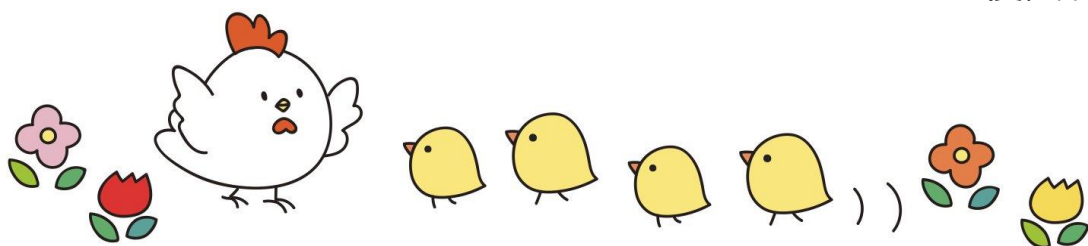
# 特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

## ～ “放課後ルームの一日”（学校放課後編） ～

早いもので、また新しい年度の始まりです。特別支援学校生徒のみなさんは、それぞれ1学年進級し、新たなステージ・環境での学校生活がスタートします🎉。年度の始まりということで、今回はあらためて「放課後ルームの1日」をご紹介します。ちなみに今回は“学校放課後編”です。

| 👦 放課後ルームの一日 👧   |   |
|---|---|
| <p>遊びのじかん ①</p> <p>14:00～</p> <p>*週1日、早い下校時制の日があります</p>   |  <p>ルームで好きな玩具であそんだり、絵本を読んだり(音楽の鳴る絵本がとっても人気です🎵)、みんなでイスとりゲームなどのレクリエーションをしたり、楽しんでいます🌟</p> |
| <p>おやつタイム</p> <p>15:30～</p> <p>*通常時制の下校時間はこの時間から始まります</p> | <p>好きなおやつ詰め合わせを選んで食べます🍴。走り回っている子もこの時ばかりは、しっかりイスに座っておやつを食べています🍴。</p>                 |
| <p>遊びのじかん ②</p> <p>16:00～</p>                             |  <p>運動場や図書室・体育館など、ルームから飛び出してあそぶことも多いです🏀。たんぽぽルーム(若久)では、廊下を三輪車でかけまわる子がたくさんいます🚲</p>     |
| <p>順次おむかえ</p> <p>17:00～</p> <p>18:30</p>                  | <p>テレビやDVDをみるなど、おちついてご家族のお迎えを待てるように、のんびり過ごしています📺。</p>                              |

(責任者：是永)



# ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

## ほっとほっとの外出サービス ♪

ヘルパーステーションほっとほっとでは、利用者の方と外出をするサービスがあります。病院の付き添い、買い物、食事など利用者の希望によって行先は様々です。今回は『お出かけの場面紹介』をしたいと思います。

### ① 櫛田神社にお出かけ

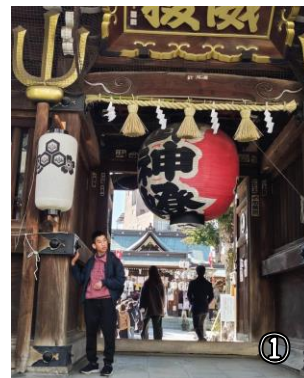
バスと地下鉄を使って櫛田神社にお出かけしました！いつもより、少し長い時間でのお出かけで、普段はなかなか行く事のないような所に行くことが出来ました！

### ② ヘルパーが来るとニコニコ

ヘルパーが来ると、いつも一緒に準備をしてくれます。いまから笑顔でお出かけ！

外出中には利用者の方のいろいろな表情をたくさん見る事ができます。その表情が私たちのエネルギーです！

(支援員：光安)



## 相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

シンポジウム「セルフネグレクト～支援を拒否する人への支援を考える～」へ参加してきました！

2/17 に九州弁護士会連合会が主催するセルフネグレクトに関するシンポジウムに参加してきました。東邦大学看護学部長の岸恵美子教授の基調講演や、高齢者・障がい者の権利擁護や生活支援等に携わる立場の人たちが登壇してのパネルディスカッションが行われました。

皆さんはセルフネグレクトという言葉に耳にされたことはあるでしょうか？講演の中では定義・概念として「健康、生命および社会生活の維持に必要な個人衛生、住環境衛生もしくは整備、または健康行動を放任・放棄していること」と言われていました。以前より地域の中で話題にあがるゴミ屋敷に住む人もセルフネグレクト状態にあると考えられるのだそうです。人との関わりを拒否され、自分自身でその環境に居るように見える方であっても、その状況に至った背景には病気や障がい、心が挫けてしまうような出来事などが考えられ、支援を受け入れないのではなく、支援を受け入れられないようなパワーレスな状態に置かれていることが考えられます。

この話は最近よく話題にあがる意思決定支援の話でもあります。関わらないでくれという本人から表出された意思を尊重するだけでなく、自分でよりよい選択肢を選んでいく力が失われているのであれば、選択する力を適切に発揮していけるようにサポートをしていくことが必要になります。ただ、これには根気強く関わり続けることが大事になります。地域でセルフネグレクト

のある方を支えていくために、見守りや関わりを多職種や地域団体などと連携しながら行っていくことが大切になります。

誰しもが、一時的にでもパワーレスな状態に陥り、誰かの助けが必要になることは考えられます。そんな時に身近にいる方々の関わりがあれば自分の生活をまた取り戻していける方もいると思います。自分の生活する地域で気になる方を見かけたらどう関わっていくのかみんなと一緒に考えていく機会を作っていければと思います。

(相談支援専門員：佐藤)



## グループホーム (すてっぷ・すまいるホーム)

きょうされん GH、生活施設学習交流会に参加し、「高齢期の発達」について考えました。

12月にきょうされんのグループホーム、生活施設の職員の学習交流会に参加しました。午前には情勢報告、特別講演「高齢期を生きる障害のある人たちの人生を見つめる」を聴き、午後からは分科会に参加しました。すまいるホームの職員は、分科会で「健康医療支援」と「高齢期支援」について学びました。

私は午前午後ともに高齢期の支援について学び、特に、仲間が身近な人の死を受け入れる過程の支援と、仲間の終末期の支援についての話が印象的でした。高齢化を迎える社会の中で、仲間のご家族や仲間自身も高齢化が進んでいます。それによって、老化や身近な人の死に直面する場面も増えているのではないかと思います。研修の中では、死を受け入れることも、人の「発達」の過程のひとつであるという話がありました。「発達」というと以前は幼児や児童の成長過程をイメージしていましたが、生涯を通して発達の歩みは続いていくそうです。仲間のつらい気持ちや悲しい気持ちを受け止めていくことはもちろん、その経験が、続いていく仲間の発達の一過程となるよう支援していくことを考えさせられる研修でした。

(支援員：白倉)

### 人事異動のお知らせ (管理者人事)

【就任】藤 環 城南区障がい者基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ 管理者：4/1 付  
〔法人本部長、グループホームすてっぷ兼務〕

社会福祉法人 葦の家福祉会だより

令和 6 年 4 月号

発行日 令和 6 年 4 月 1 日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川 4 丁目 1 - 1 7

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>



法人ホームページ